



冬休みは 子どもと一緒に 本を読もう！

☆もうすぐ冬休み☆

今回は、寒い冬の季節に合った本や、お正月など、この時期の行事に関する本を紹介します。保護者の方にとっては忙しい時期だと思いますが、そんな時だからこそ、読書がおすすめです。お子さんや家族と一緒にほっこり読書をして、感想を共有してみませんか？

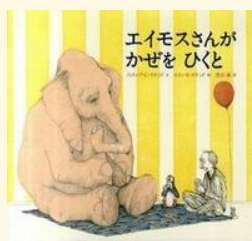
◇『十二支のおはなし』



内田麟太郎/文
山本孝/絵
岩崎書店 2002. 11

お正月に神様のところへあいさつに行くことになった動物たち。最初に着いたのは、ちゃっかりもののねずみでした。

◇『エイモスさんがかぜをひくと』



フィリップ・C・ステッド/文
エリン・E・ステッド/絵
青山南/訳
光村教育図書 2010. 7

動物園で働くエイモスさんが風邪をひいてお休みに。心配で仕方ない動物たちは、彼のお見舞いに行きます。

絵本

◇『しろくまジローはすもうとり』



ななもりさちこ/作・絵
福音館書店 2018. 9

人間の力士に変身し、すもう部屋に入門したしろくまのジロー。楽しくすもうをとり、勝ち上がります。

◇『ぼくはめいたんてい ゆきの中のふしぎなできごと』



マージョリー・W・シャー
マット/文
マーク・シーモント/絵
光吉夏弥/訳
大日本図書 2014. 9

誕生日プレゼントが雪道で消えた！どんなプレゼントかわからないまま、ネートは追跡を始めます。

低・中学
年
向
き

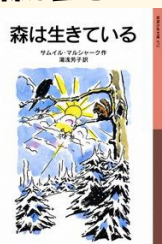
◇『ピアノ/をきかせて』



小俣麦穂/著
講談社 2018. 1

「ピアノの楽しさを忘れている姉の心に、この音楽劇を届けたい」音楽の素晴らしさや、家族の絆が伝わる物語。

◇『森は生きている』



サムイル・マルシャ
ク/作、湯浅芳子/訳
岩波書店 2000. 11

継母の言いつけで吹雪の森に入った少女は、12の月の精に出会います。スラブ民話を元につくられたお話。

高学年
向
き

知識
の本



自然◇『雪の結晶/ノート』

マーク・カッシーノ&ジョン・ネルソン/作、千葉茂樹/訳 あすなろ書房
2009. 11 (低学年～)

食物◇『季節をたべる冬の保存食・行事食』

濱田美里/著、藤田美菜子/絵 アリス館 2014. 12 (高学年～)

行事◇『お正月がやってくる』

秋山とも子/作・絵、ポプラ社 2018. 12 (低学年～)

言葉◇『春夏秋冬・12か月手紙を楽しもう！』

スギヤマカナヨ/著 偕成社 2018. 2 (中学年～)

◎家読（うちどく）やってみませんか？◎

家読とは、家族で読書する習慣を作り、本の感想を共有し合う活動です。

読書を通してコミュニケーションの時間を増やし、家族の絆を育む機会になります。

次のようなポイントを参考に、気軽に初めてみてはいかがでしょうか。



- ① 家族で読書する日や時間を作ってみましょう。
- ② 図書館や書店へ出かけて、読みたい本を探してみましょう。
- ③ 本を読んで、感想を話し合ってみましょう。
- ④ 家読用ノートを作って、読書記録を残してみましょう。

たくさんの子どもの本があって、どんな本を読んだらいいかわからない時は、大阪府立中央図書館が作成したブックリスト『ほんだな』を参考にしてみてください。

『ほんだな』は大阪府立中央図書館ホームページ「こどものページ」で見ることができます。

『ほんだな』の URL・QR コード

<http://www.library.pref.osaka.jp/site/kodomo/hondana-index.html>



気になる本、読みたい本が見つかったら、近くの図書館や書店などへ出かけてみませんか？



発行	大阪府教育委員会（2019年11月発行）
お問合せ先	市町村教育室 地域教育振興課
	電話 06-6944-9372（直通） FAX 06-6944-6902
ホームページ	http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiku/
協力	大阪府立中央図書館